

月報

1985 1 月 號

シンガポール日本商工會議所

目 次

(1985年1月号)

1985年新年随想

年頭所感	(日立造船ロビンドックヤード).....	水戸 清	1
新年随想	(丸 紅)	榊原 輝典	2
健康礼賛	(三 井 銀 行)	長野 敏章	3
新年随想	(伊 藤 忠 商 事)	堀部 昌昭	4
1985年度初夢	(カネカ・シンガポール)	前田 愛雄	5
生き残りをかけて	(シンガポール松下無線機器).....	小出 富夫	6
“タダの人”総決算	(三 菱 商 事)	林 孝雄	8
CONSOLIDATIONの年	(三 井 物 産)	青柳 茂雄	9
新年随想	(大阪商船三井船舶(シンガポール))....	加々尾 一弘	10
国際化時代への日本の対応	(三菱シンガポール重工業)	泉 武	11
年初雑感	(NEC シンガポール)	吹野 勝重	13
新年随想	(新日本製鉄)	野明 宏次	15
新年雑感	(日本郵船(シンガポール))....	那波 光俊	16
新年雑感	(大林組シンガポール総合事務所)	花嶋 晴道	17
今年の楽しみ	(岡本(シンガポール))	三森 和正	17
初夢「買物天国到来」	(シンガポール大丸)	秦 悌之	18
新年随想	(シンガポール・タイム)	小林 紀夫	20
新年雑感	(住 友 銀 行)	赤松 孝彦	21

新年を迎えて	(東京海上火災保険シンガポール)	望月 冲	22
新年所感	(横河電機新加坡)	渡辺 昭雄	23
1985年新年随想	(シンガポール野村 マーチャント・バンキング)	沼野 健司	24
1985年の新年を迎えて	(日本貿易振興会)	井手 俊弘	25
わからぬということ	(ペトロケミカル・コーポレーション ・オブ・シンガポール)	堀 英太郎	26
心と心	(河合シンガポール)	安川 一夫	27
シンガポールの石油産業	(出光インターナショナル・アジア)	中澤 啓介	28
シンガポール広告事情	(株)博報堂シンガポール)	渡辺 知見	39
会員紹介			45
理事会の動き			46
12～1月主な経済記事			50
広報欄			56
資料案内			57
編集後記			59

新 年 随 想

1985

シンガポール日本商工会議所

年頭所感

シンガポール日本商工会議所 会頭
日立造船ロビンドックヤード 社長
水戸 清

会員の皆様、新年を迎え謹んでお慶び申し上げます。

さて、1985年はシンガポール共和国にとりましても、当シンガポール日本商工会議所にとりましても新たな飛躍を目指しての門出の年であると申せましょう。

ご高承の通り、シンガポールは建国25年にして素晴らしい経済発展を遂げ、今やNICSの旗頭として活躍しておりますが、今後においては発展途上国の追い上げと先進国との競合という新たな試練に直面することになるでしょう。

しかし、シンガポールが新たな時代に対応すべく昨年末の総選挙を通

じてフレッシュかつバイタリティ溢れるニューリーダーへのバトンタッチを行い、21世紀に向かって理想的な社会の実現に積極果敢にチャレンジしようとしていることは誠に頼もしい限りであり、この意味で本年はシンガポールが輝やかなしい未来を切り拓く第一歩を踏み出す年であります。

一方、昨年創立15周年を迎えた当商工会議所にとりましても本年は新たな飛躍を目指す重要な年であると存じます。

創立以来長年にわたる先輩諸氏の献身的努力により会議所事業は年々活発になり、本所はシンガポールにとりまして無くてはならない組織として広く認められるようになりました。同時に日系企業のプレゼンスが著しく増大した今日、在星日系企業社会を代表するシンガポール日本商

工会議所に対する当国政府並びに地元社会からの期待は想像以上に大きなものがあります。

それだけにシンガポールの発展のために我々として何を為すべきか、何が出来るかを常に念頭におきつつ中長期的観点に立って会議所事業を展開していくことが強く求められていると言えましょう。例えば昨年スタートとした労使関係セミナー及び再留学援助制度はこのような考え方に基づくものであり、日本的経営の導入や生産性向上運動の普及と同様決して一過性のものとして終らせることなく、本所の基幹事業として定着させねばなりません。また、良好な日星両国関係の中でともすれば地域社会との交流、融和の努力を怠りがちになりますことから、在星の主要関係機関との定期交流プログラムを作成し、積極的に相互理解、交流を深めたいと考えております。

以上思いつくままに抱負の一端を述べましたが、本年も旧年に倍して積極的に本所事業にご協力賜われますようお願い申し上げます。

年の始めにあたり、シンガポールの益々の発展と会員の皆様の一層のご健勝とご多幸を祈念致します。

新年随想

副会頭

丸紅（株）

支店長 榊原 輝典

新年御目出度う御座居ます。

世の中は広い様でも、狭いものでと云われておりますが、今から二十数年前、米国に駐在して居た折、或る街角で、肩の触れ合った相手が、小学校の同窓生で、偶々米国に出張中であつた事を記憶しているが、若し、一秒の差が生じておれば、そのまま、会う事もなく永遠のすれ違いに終つたに違いない。

ここ、シンガポールでも、約2万人の日本人が住んでいるので、何か係り合いがあるのではなかろうかと、思っていたら、矢張り珍しい事があるものである。

同業者仲間の支店長が、クラスメートである事が、銀行と商社に、夫々居る事が偶然から分つた。

住友銀行・三和銀行の両支店長さんが、神戸高校（旧神戸一中）のクラスメートであり、兼松江商と丸紅の両支店長が、矢張りクラスメートで、

旧神戸二中（現兵庫高校）の出身、然も住友商事の支店長が、同じく、三年後輩。

神戸一中は、頭の良い、柄の良い名門中学で当然の事ながら銀行の幹部になっておられるが、神戸二中は、パンカラで、腕ッ節の強いのが取柄故に、商社にもぐり込んでいるのも面白い。

他にも探せば、同じ様な出会いがあるかも知れない。

敗戦の年、昭和二十年に、中学四年と五年が同時に卒業を強られた唯一の年代であり、それだけに、戦中を苦勞した一員として、中学の同窓生が最も懐しく、連帯感がある様に思う。

建国二十五週年行事の一つとしてか、昨年末のXマスの街並は、例年になく美しく飾られ、南国での二度目の新年を迎え、二十一世紀には、日本を追抜き、スイス並みの所得を予測している、この国シンガポールとの、良き競争相手として、今年も頑張っ
て行き度い。

健康礼賛

副会頭

株式会社三井銀行

支店長 長野 敏章

年が改まる度に 月並みではあるが、この一年、無病息災、家内安全である様、祈念することになっている。とは言っても、家内安全については他律的要因に左右されるところ多く、結局、神だのみとならざるを得ないが、無病息災については、そもそも自律的要因で決まる部分が多く、しからば、健康たるべく自助努力を要するところとなる。

実のところ、健康については、根が丈夫なこともあり、例年、年頭に無病息災を唱えながら余り考えたこともなかったが、先年、当地赴任前お客様との親善野球試合に出場、年がいもなく、蛮勇をふるって、スライディングを敢行したのが運悪く、肝腎要のアキレス腱を切って、敢え無くダウン入院する破目になってしまった。爾年、健康の有難さを痛感した次第である。痛感したついでに医者への勧めもあって、チェインスモ

ーカーといわれたタバコもやめてしまった。加えて減量にも成功した。今は文字通り、健康体そのものと自認するところである。

健康は自分自身でマネージ出来る能力の一つであると思っている。特に当地のような気候条件の厳しいところに勤務するものにとっては、語学能力等他の能力以上に最も重要な海外勤務適性能力であるといっても過言ではないと思う。健康保持増進能力を礼賛する所存である。

会員の皆様のご健康とご多幸を心からお祈り申し上げます。



新年随想

理事

伊藤忠商事（株）

支店長 堀部 昌昭

新春お慶び申し上げます。

昨年5月末、4年7ヶ月駐在して居たマニラより当地に転勤して来ました。

それから約半年もたもたやってきて、シンガポールのお正月をはじめて迎える次第です。

何せ小生の前任者は、夕食一晚2回でも、ゴルフは一日36ホールでも辞さぬ超絶倫者であった為に、私が、如何にあがいても見劣りがする、その上彼は麻雀、ゴルフ共甚だ勝負強かった様で、彼とつき合った皆さんのうらみ、つらみは全部後任者の私に向けられると云った、もう一つ納得しがたい状態におかれて居ります。

マニラからこちらに参って発した家内の第一声は、道路に穴ぼこがないので車が、がたがたしないわね、と云う事でした。今ここで両国の政治、経済などの違いについて云々する積りはありませんが、何と云って

もまず、食事がおいしい、うまい
まいとついやって居る内に苦勞して
70キロ以内に抑え込んできた体重
があっという間に急増し、豊かな流
線型のおのれのお腹をながめ、何時
からダイエットを始めるべきかの決
断に迫られて居ります。

次にフィリピンと較べてどうも当
地の方が涼しい、マニラがほぼ北緯
15度にてそこから赤道直下に行く
のだから、さぞかし暑いだろうと覚
悟して来たのですが、これは完全な
拍子ぬけ。家内などは早速しっかり
風邪を召される始末で、誰かが地球
というものは赤道道下よりも、北緯
南緯共10度か15度位の方が暑い
事になっているんですよと教えてく
れましたが、これは理論的に本当な
のかどうも未だ判然として居りませ
ん。

マニラに参りました当時は、フィ
ピンの英語がよく判らず苦勞しまし
た。今ではフィリピーノ・イングリ
ッシュが世界中で一番スタンダード
の様に聞えるのですが、今度シンガ
ポールへ来てここの英語がこれ又難
物。最初はキャン・キャンなどと云
われると犬でも居るのかと驚いたも
ので、今でも私の為に運転してくれ

ている会社のドライバーとの意志疎
通には絶大なる忍耐心と注意力を必
要として居ります。早くこれがすん
なり耳に入ってくる様にならねばと
は思っておりますが何時になります
事やら。

ごたごた誠にとりとめのない事を
書いてしまいましたが、今後どうか
宜しくお願い致します。又、会員皆
々様の一層の御健勝、御繁栄を祈り
申上げる次第であります。

1985年度初夢

理事

カネカ・シンガポール株式会社

社長 前田 愛雄

再び暑いお正月を迎えることにな
った。シンガポールでは特にあらた
まって大掃除をすることも、それ程
好きでもないおセチをわざわざ取揃
えることもないので、いつもの週末
か休日と同じようなパターンで心を
あらためるべき元旦を迎えることに
なる。昨年はささやかな決心として
ゴルフ・ハンディをティーンエイジ
に若がえらせる初夢を見たのだが、

見事に失敗したので85年の初夢に持ち越すことになった。85年にはもう一つさやかに碁のハンディもレベル・アップすることをつけ加えたい。

ゴルフでは頭には理想型のスウィングがあって練習では比較的それに近い形に持って行けるのであるが、残念ながら現場で再現する時、特に大会などでイザと思ったトタンに精魂込めて培った筈の練習の成果はウタカタと消えビギナーと大差のない結果を招来してしまう。寄せとパターンをもっと練習すればスコア・アップにつながることを知っていながら、ティーショット、ロングアイアンでよい当りが出ることを無上の嬉びとしているのだから始末が悪い。85年は如何にしてこのパターンを脱却するか……パートナーは精神年齢が若いと云っておだてて下さるが未熟の皮肉ととるべきであろう。今さら飛ばせもしないティーショットやロング・アイアンは暫くおいてショート・アイアンの練習をみっちりつみ上げ、それに精神修養をして平常心を保てるようにするべきだと思い至った。特に失敗後のリカバリーに無理せず、力まずを身につけねばなるまい。

うまく行けば小生と御一緒に下さる方々にはおそろしい？ パートナーとなる筈なので、ドキンとするような冗談や皮肉を用意して足をひっぱって頂ければ……とひそかに期待をしている。その一言で大きく乱れた時は大いに笑って頂きたい。

これが私の単なる初夢であったかどうか土、日の休みなどゴルフに誘ってみる勇気のある方はおられませんか……。

生き残りをかけて

理事

松下シンガポール無線機器（株）

社長 小出 富夫

5時50分。にわたりの声が聞こえる。6時。近くの教会の鐘が鳴り響く。6時45分。ようやく東の空が明かるくなる頃、マイナ(※1)の合唱が始まり、シンガポールは朝を迎える。

シンガポールはほぼ赤道に位置するので、太陽はいつも真上かと思うとそうでもない。私の部屋の窓が東向きなので、一年間、太陽の出る位置を観察してみた。予想どおり、約50度、南北回帰線(※2)の分だけ動

いている。これはコンパス（磁石）で確認した。6月20日頃一番北へ寄り、12月20日頃一番南へ寄る。考えてみれば当り前のことで、春分の日と秋分の日にちょうど真東に来るのである。

このように、シンガポールにも太陽の動きに応じた微妙な季節の変化があり、気をつけてみると、花が咲くにも時期があるようだ。レインツリーの花も決して年中咲いているわけではなく、或る時期だけ咲いているのである。もっとも、中には他の木が、今を盛りと咲いているのに、黄色くなって葉を散らしている無節操な木もある。どの世界にも半端者がいるらしい。

変化といえは、ここ数年の欧州通貨の弱くなりようは、だだ驚くばかりである。当社としても2割の比率を占める欧州市場がこんな状況では商売も何もあったものではない。シンガポールからの輸出は全く競争力が無くなってしまう。この状況が続けば、西へ向う船は空っぽのタンカーしか無くなってしまうだろう。

今は米国の景気が良いので東を向いて仕事をしていればこと足るが、それとていつ迄続くかわからない。

必ず景気の変動があるし、これから下降することは間違いない。その時になって業績不振を景気のせいにしては、経営者としての責任は全うできない。今のうちにぜい肉を落とし、体質強化に取り組み、不況の波が来てもそれを乗り切ることができる体力をつけておかななくてはならない。

そうするためには、経営のトップから、現場の一担当者に至る迄、各々自分の仕事の効率を高める以外はない。

それができない企業はシンガポールを去る以外に道はない。そのために当国政府は、生産性を高めるよう、執拗なまでのキャンペーンを行っているし、当社としても T. Q. C. 活動で生き残りへの道を探っているのである。

※マイナ：俗にカラスといわれる
嘴の黄色い鳥

※回帰線：南北23° 27' の位置にある

“タダの人”総決算

理事

三菱商事株式会社

支店長 林 孝雄

“タダの人”と題して、過去3回に亘ってゴルフに関する駄文を弄して参りました。私の当地在勤もそろそろ終りに近付いて来ましたので、今回は私のシンガポールに於けるゴルフの総決算を皆様に御報告させて頂き度いと存じます。

私は、ゴルフに関しては（外のことも押し並べてそうですが）、結局“タダの人”であり続けました。

（下記記録を御参照下さい。）その間、自分では自分の下手さ加減が充分に分って居ながらも、余りの不甲斐なさに、プレー中思わず「コンチキショー」とか「バカタレ」とかの汚い言辞を弄し、パートナーの皆様の顰蹙を買ったのは、精神修養の足りなさ若干の照れ隠しの為せる術で、平にお許し下さい。

扨て、恥を晒すようですが、私の3年8ヶ月に亘る在星ゴルフの総決算を下記に御報告申し上げます。

回数：81年（4月着任以降）	41回
82年	94回
83年	109回
84年（11月末日現在）	108回
合計	352回

註1）コースは大半はSICCオールド・ニュー・ブキット・サイムの各コース、一部セントサ・タナメラ・ジュロン・センバワン・ロイヤルセラランゴール・マラッカ・ジョホール等のコースです

2）上記回数には、客の都合では1つしか廻らなかったものや、雨で中断したものも、総て1回として数えてあります。

スコア：81年平均	100.5
82年平均	100.6
83年平均	100.0
84年平均	99.5
総平均	100.1
ベスト	88 於オールド
ワースト	113 於ニュー

つまり低位安定型で、遂に100の壁を破れなかった訳です。

その間、ハンデいは24から20の間を往復し現在22です。遂に10台には入れませんでした。

反省点：１）基本が出来てないこと。

２）練習不熱心なこと。

３）余りに回数が多過ぎて集中力を欠いたこと。

いづれに致しましても、大勢の方々と非常に楽しいプレーをさせて頂いたことを、大変嬉しく思っています。どうも有難う御座居ました。今後共宜敷く御願ひ申し上げます。

「CONSOLIDATIONの年」

理事

三井物産株式会社

支店長 青柳 茂雄

在星丸４年、この４年間のシンガポール経済の足取り顧る時、マクロ的にはまず順風満帆といって過言でなかろう。尤もミクロ的には高賃金政策への移行、労働集約型産業より技術集約型・高付加価値産業への転換、サービス産業ソフト型経済への傾斜などにより業種によって跋行現象が見られるが。しかし今年の経済見通しは総じて芳しくない。米国向

輸出に大きく依存しているシンガポールにとって、米国景気がどんな展開を見せるかが懸念材料だ。近隣諸国の動向も不安材料に満ちている。国内を見ても今迄続いた建設ブームがPRIVATE SECTOR については峠を越えた。昨年よりこの１～２年にかけて陸続と生れるホテル大谷、プリンス・ホテル、フラマ・ホテル、日航、東急、第一と日系ホテルだけをとっても一寸つくり過ぎ、矢張り息入れる時だ。デパート、ショッピング・センター、オフィス・ビルも又然り、製造業と建設業がこけると金融業もこけるという趣旨のことをトニー・タン大臣が昨年１１月仰った。

政治面でもシンガポールは新旧世代交代の時を迎え、ここ暫く新しい世代による地固めの期間のようだ。

次の新しい飛躍への準備の時といえようが、景気がおかしくなると商内でもお客との間に免角きしみが起き勝ちだ。腹を固めて慎重に次の飛躍に備える時だろう。

今年は地固めの年、
“CONSOLIDATIONの年”といえよう。

新年随想

理事

大阪商船三井船舶（シンガポール）

社長 加々尾 一弘

新年あけまして おめでとう ございます。

シンガポールは 昨年 建国 25 周年を祝い、今年は 次の四半世紀に向って 第一歩を踏み出しました。

東西貿易の中継地として、繁栄を続けるシンガポールの将来は、ますます、国際的重要性を増し、太平洋の時代と言われる西暦 2000 年代に向って、シンガポールは、大きく躍進するものと確信致します。

シンガポール港での、輸出入取扱屯数は、石油を主体として、今や、世界第 2 位になったと言われ、地理的好条件が 今後の発展を更に助長するものと思います。

さて、我国海運は、日本を中心とした荷動きへの依存度を減らし、海外での 3 国間輸送に、進出する必要に、せまられております。

シンガポールに進出している商社、製造業各社は、既に、三国間貿易への進出を、はたしており、これに関

る輸送は、幅広く、国際競争の中で撰択され、特に極東諸国の海運の進出が著しいことは、言うまでもありません。

この中で、シンガポールの海運政策は、比較的に自由であり、公平な競争を導入する点で、フェアであります。

去年は、当国の国営海運である、ネプチューン・オリエント・ラインは、当地外国船社の駐在員を一夜招待し、地元船社として、ホスト役を買って出ました。

又、トニー・タン大蔵・商工大臣は、地元有力船社に加え、一部外国船社を昼食に招待し、忌憚のない意見交換の機会を持ちました。

日本の経済及び企業は、ヨコのつながりが強いと言われますが、当国では、コストを重点とする、タテのつながりが強く、ヨコ系とタテ系のすり合わせが、言わずもがな、必要となります。

今年もあわただしく、過ぎてゆくものと思いますが、交流の輪を拡げ話題を豊かにしたいものです。

国際化時代への日本の対応

理事

三菱シンガポール重工業株式会社

取締役社長 泉 武

これからの日本は、宇宙船地球号の乗組員の一員として、国際的協調と協力を益々必要とすることは論をまたない所でありましょう。

これはとりも直さず日本があらゆる問題の処理に際して国際的センスに基づいた判断と行動を求められることを意味しましょう。

日本の国際化の必要性が叫ばれて、久しくなりますが、本当にどれだけ、国際化が進んで来ているのか、或は、国際化時代にふさわしい対応体制が整って来ているのか、色々考へさせられる事柄に遭遇することの多い毎日であります。

高度な次元の問題の論議や高邁な議論は既に数多くの識者から出されていますので今日は視点を變えて卑近な問題から話題を拾って見ましょう。

例えば国際化の尖兵として海外で活躍する邦人及びその家族は何拾万人になるのか、詳しくは存じませんが、相当な数でありましょう。

この人達が本当に安心して些事に煩わされる事なく、力一杯、活躍出来る体制が日本に整っているか、まだまだ不備な事が多いと思われます。

勿論、個々人の事情、家庭の問題、其の人の属する企業の制度等色々ありますが、其は別として、先ず、日本の国としての制度、体制について海外で活躍する邦人が困惑している実例を身近に見たり聞いたりした範囲の中から、順不同で御紹介しましょう。

共通して、悩んで居られる事に子女教育の問題があります。これは、色々な角度や立場から議論も行なわれ、また一部ながら、改善も進んで居るのは事実であります。

そこで最近耳にして驚いた話を一つだけ御紹介します。

シンガポール居住の或る邦人の子供さんが、日本の或る県立高校を受験しようとした所その高校から、現在県内に居住して居ないから、及び県民税を納めて居ないからと云う理由で、受験は受け付けられないと断って来た由であります。

御両親の驚愕は大へんなものであります。大変な心労と時間を費して手紙のやり取りが、繰返され、結局、

何とか受験出来る様になった相ではありますが、受験、その物だけでも不安の断えないものであるのに、加えて、制度上の問題まで加わり大変な御心配が今尚、続いて居られます。

せめて、受験出来る制度だけでも予めクリアに出来て居たらと思います。

次に、選挙権について申し上げます。

誰でも皆自分の祖国が少しでも良くあれかしと願うのは当然であります。また、海外に居ますと国内に居たのではかえって、判り難い国の姿が大局的につかみ易くなる面が多々あります。

勿論、三浦某がロスで何をしたとか、その彼女の妹が何所でどうしたとか、と言った類の情報には、疎くなるのは当然であります。日本は国家として、如何に在るべきか、国防の論議の視点はどうか、と言った様な種類の問題については其れなりの認識と意見を持ち得ると思います。

地方選挙はさて措くとしても少くとも国政レベルの選挙に投票権が認められない現状は日本にとってもマイナスではないでしょうか。

日本が島国的視点を脱却する為には、この様な多面的意見を国政に反映吸収する努力が必要だと思います。

其の他、例えば固定資産税は代理人をその市町村内に設けないと払えないと云うのは身寄りの無い人にとってはどうしたら良いのでしょうか。

或は、海外居住期間中は国民年金が払い込む事すら、出来ない。

或は財形貯蓄は海外居住期間中の権利停止だけで無く、海外居住が3年以上に及ぶと帰国後も権利回復が出来ない由。

持家の処分も3年以上経つと税制上問題が有る由。

こう云った海外居住に纏る制度上の問題点は枚挙にいとまがありません。

せめて、こう云った国の制度上の問題だけでも解決して後顧の憂いなく日本人が海外で活躍出来る様にすることが日本として必要では無いでしょうか。

この様な事は皆夫々悩み不満を持って居ても事の性質上あからさまに云い出し難い、或は、持ち込むべき相手がはっきりしない種類のものが多くありましよう。

従って、しかるべき在外機関で一

度組織的に収集して問題点を整理し、日本のしかるべき機関に意見具申しではどうかと考える次第であります。新春雑感にしては冴えない話題となりましたが、1985年が皆様に幸多い年となりますようお祈り申し上げます。

年初雑感

理事

NEC シンガポール

社長 吹野 勝重

前夜から続いていた雲一つない青空に午後の3時頃から薄雲がところどころに出始め、夕方になって何やら不気味な黒雲が広がり出した、というのが私が属する半導体部品業界の昨1984年の状況だったでしょうか。そして今年85年はうまく黒雲が逃げて快適なプレーが楽しめるのか、雨になるのか、いまのところよく読めないという状況で、いずれにしても雨具の用意をして、米国上空の雲の動きを見ながらプレーした方がよいようです。

年の始めには明るい景気のいい話題と相場が決まっていますので、い

ささがまずい書き出しで申し訳なく思います。私も来星以来早や8ヶ月過ぎました。在星10年などという方に比べれば誤差のうちですが、南の国では月日の経つのが実に早いというのが実感です。前任者のあとを承けて理事をやらせていただいておりますが、正直なところ商工会議所のいくつかの会議、催しに皆勤しながら諸先輩のなりを見て自分のものにするのが精一杯で、未だお役に立てるどころ迄いっておりません。でも会議所のおかげでいろいろ異なった分野の方と近ずきになれ、いい勉強になり感謝しているところです。

さて当地に来て大変遅まきながらゴルフというものを始めました。止まっているボールを打って大の男が一喜一憂する単純きわまりない遊びですが、仕事よりもおもしろく？月8ペースでゴルフ場通いをしております。他の人より3〜40%も余分に打ち、歩いていますからきっと健康にはいいと思います。それにキャディーや池に待ちうける子供達の仕事にも貢献し、コンペの賞品代・馬券・ニギリ・ブービー賞製造に一方通行で寄与してますからいろいろ他人のお役に立っているわけです。

ここで当シンガポールについて日頃感じていることについていくつかあげてみたいと思います。

①人件費の急上昇：ここ数年あまりにも急激に上っており、韓国・日本等との国際競争力が弱くなっている。政府の指向するハイテク産業構造へ果してうまく移行出来るだろうか。

②労働不足：慢性的の不足に加え低出生率、外国人労働者も91年迄に帰す。これで今後成長率が維持出来るだろうか。

③激しいジョブフロー：ワーカーは採用後3ヶ月以内に70%退職、中堅技術者やスタッフは会社を変えないと能力がないと見なされる。これでハイテクの移転が可能だろうか。

④政府の日本への期待大：日本式マネジメント・労使関係・TQC・QCサークル等の分野で日本は果して最後迄彼らの期待に応えられるだろうか。万一中途半端に終わりの反動は大きかろう。

⑤政府主導型多すぎ：政府が言い出し、推進し、動くの政府系企業とマルチナショナル企業だけといったケースが多すぎる。肝心のロー

カル企業は今一つ燃え上らない。

⑥クリーン過ぎるシンガポール：緑もきれい、整然としたゴミ一つない町、すばらしいと思う。しかし何かもう一つ物足りない。

⑦少ない観光資源：2度3度と来たくなる魅力にどうも欠ける。古い街並みと活気と喧騒が消え画一的ショッピング・センターのみ

⑧暗い照明：女性の眼鏡が目立ち、小さい子のそれも多い、民族のために明るくしょう

⑨過剰冷房：部品の温度サイクルではあるまいし冷せばよいというものではなかろう。批判めいたことを種々書いたのも当国が好きであればこそ、この国に住み事業をやる身では、当国の方針に従い、あまり驕り高ぶらず、でも言いたいことは言って、少しでもこの国のお役に立つようになりたいというのがこの年頭の雑感です。

新年随想

理事

新日本製鉄株式会社

事務所長 野明 宏次

昨年、当地へ赴任して来たのを契機に、東南アジア諸国のお国柄を夫々表現した絵を買い求め始めた。

先ずタイの豊かな穀倉地帯を描いた絵、次いでシンガポールは、皆さんおなじみのシンガポール川風景のものを2点買った。

過去3回に亘り7年間も住んだマレーシアを描いた絵は、真先きに我が家を飾らせたく前々から探していたが、これぞというのがなかった。所が先月クアラルンプール日本人学校の絵の先生である橋口画伯の個展を偶然見に行った。

そこでは「マレーシア慕情」というテーマで、回教モスクと仏教寺院を混在させた一種のイメージ画が展示されていた。2つの宗教をミックスしてしまうという先生の大胆な画材の扱い方は、マレーシアでは恐らく理解されないだろう。然し乍ら、先生の素朴な情感つまりモスクも美しいし、又中国のお寺も美しい、そ

の両方を豊かな森のかたちに表現し「マレーシア慕情」と名付けた素直さに深く共感し、50号と10号の2点を買った。

昨年我々の身近かなアジアで、インドやスリランカで、人種・宗教に起因した悲慘な出来事があった。マレーシアやインドネシアでも、過去同様な悲劇があった。

宗教について、小生とやかく言える立場にないが、寺院・お寺夫々美しいのと同様に、その教えも又夫々人を強く惹きつけるものを持っているのだろう。所が一度び一つの宗教を信じてしまう事によって、他のものの美しさや良さを否定してしまう様な事にでもなったら、人間まことに窮屈なものである。

我々日本人のように所謂「無宗教」である事は、かえって幸わせであるのかも知れない。

今年も又、東南アジアの国々の豊かな自然や素朴な人間を描いた絵を買い求めようと思っている。

新年雑感

理事

日本郵船（シンガポール）（株）

取締役社長 那波 光俊

明けましておめでとうございます。

南洋ボケが確実に進行して行くのを自覚しつつ、敢えて抵抗を試みず、いずれボケ止ると高をくくっている内に二度目の正月を迎える事となりました。シンガポールは1984年も平和で、しかも順調な成長を遂げ洵にご同度の至りでございます。

こうした中で、昨9月お隣りマレーシアに於て、マハティール首相が対日貿易不均衡問題、技術移転の遅れを批判した強い調子のメッセージを発表した事は記憶に新しい処で、東南アジア、就中マレーシアに進出している日本企業にとっては厳しい警告として受け止められた事と存じます。

技術移転の問題は昨今各国で話題となって居りますが、これは単純に右から左に移せる、移せば良いものではなく、各々の国情・国民性に合わせた形で息長く取り組まねばならない様に思います。例えばマレーシア

やインドネシアでは米の三期作が可能、果物・野菜は豊富で安価、ゴム、パーム油、石油、木材等の一次産品は豊富、衣服が無くとも凍え死ぬ恐れも有りません。この様に恵まれた環境の中で長い間に培われてきた国民性を充分考慮して、工業化、技術移転を行う必要があるのではないのでしょうか。（その様に、のんびり構えていられないのでしょうか……。）何れにせよ、技術移転は、求める側も、与える側もそのテンポを事前に充分摺り合せておく事が大切で、これを怠ると摩擦が大きくなる様に思えてなりません。

「英国の名をして、アジア諸国民の間に荒廃を招く嵐として記憶せしむるな」「圧迫の冬枯れ時から、生命を蘇らせる春の微風として記憶せしめよ」と云う意味のラッフルズの言葉は、その俚、我々への忠告として生きている様に思われます。



新年雑感

理事

大林組シンガポール総合事務所

所長 花嶋 晴道

新年明けましておめでとうございます。

シンガポールにも、はや丸6年、通算10年以上も海外勤務をしていますと、一度は日本勤務になって、寒い冬に身をキュート引締め、キュート熱燗で一杯という欲望にかられます。

日本サイドにての要求を出しますと、南洋ボケは日本では勤まらないから、現状維持が良いですよ、との親切な忠告が返って来ます。トシで少しは記憶力が鈍り、ゴルフの飛距離が落ちたこと認めても、生馬の目を抜くシンガポールで勤まれば、日本の同期の連中に優るとも劣っていないと自負していても自信がなくなります。

南洋ボケも昔しの意味と異なって長く海外勤務していれば、“お願い”はせいぜい仲間内の麻雀の延長戦だけで、その他はYES, NOを明確にするクセが付き、これが仲良く日本式にやっている日本サイドと適応し

ないのをボケと云うのであれば、本人としても認めざるを得ない。帰国をするためには、会議、会議の連続にも発言を控えて、聞き役に廻れる様に、今年からはリハビリテーションとして直ぐには答えを出さない訓練を始めようかと考えている。その手始めに先ず、早打ちを直して、後悔の少ないゴルフを心掛けなければと、最後は本人の性格と能力に大半が基因していると反省し、ブランデーの水割りを飲みながら迎えた1985年、会員の皆様、今年もよろしく。

今年の楽しみ

理事

岡本シンガポール（株）

取締役副社長 三森 和正

季節の移り変りが、カレンダーの絵でしか分らなくなってから、はや2年目の正月を迎えた。夢中で仕事探しに走り廻っていた昨年と違ってややゆとりは出来たものの、今度は仕事に追われる立場である。何時もながら心の休まる暇が無いのは、日本的体質の宿命でもあろうか。

「シンガポールで仕事がやり難く

なった」とは、最近諸先輩からよく聞かされる言葉である。主に製造業の方々からの声ではあるが、昔の古き良き時代を知らないだけに、何ほどの程度と具体的に判断は出来ないが、比較的高い賃金の上昇や、何にも増して人の採用が難かしくなったことだけは否めない。失業率が3%弱と云う労働市場が原因であることは間違いの無い事実であるが、この国の国民にとって、失業率が低いことは喜ぶべきことであって、何も外国人の我々がクレームをつけるべき問題ではない。

とは云っても、会社を運営している側にとっては、従業員が確保出来るかどうかは、死活問題であって、将来、果してこのままシンガポールで操業を続けるべきかどうか、思い迷うこともある。従業員の定着性や会社に対する帰属意識など、日本人と考え方が異なるのは、当然と云えば当然な話で、我々の方が考え方を改めなければと思う反面、もう少し会社の立場を理解してくればとの愚痴も出るし、とかくままならぬ現実になるようになるさ、と開き直ってみたりもする。

然し、「窮すれば通ず」との諺に

にある通り、本当に困れば、何とか良い解決方法を見つけ出すものだが未だにこれと云った打開策が立てられないのは、まだ真剣に困っていない証拠なのかも知れない。

人が来ないと云っても、まるきり零ではないので、少い人数で効果を上げるやり方、所謂「生産性の向上」を計るしか無いのは、何もNPBから教えられるまでもない。だからお前をシンガポールに出したんだ、と本社から云はわれればひとたまりも無いので、今年こそはもう少し真剣に困って、本当に良い解決策を見出し、逆に大いに時間のゆとりを作って、仕方が無いから下々のやっているゴルフでも始めようか。との心境に達するのも、悪くはないと、一人ひそかに皮算用をしているのである。

初夢「買物天国到来」

理事

シンガポール大丸

代表取締役 秦 悌之

明けましておめでとうございます。
まずは今年の景気が気懸りなのは、私共の流通小売業だけではなさそう

ですが、こう新規参入や増床が姿型になって現れると、人々の茶のみ話にも登場するというものです。「この国って、小売屋さんがそんなに儲かるの」「商売になるから出てくるのよネ」「だったら、あのサービス何んとかない」「でも、新しいお店ができ過ぎて、お客の引張り合いで大変なようよ」……お暇をお楽しみ中の奥方連の会話が聞えてきそうです。

1983年の1年間で大型店舗の床面積が一据に倍増しました。世界でも、他に類例のないことであつたでしょう。加えて、手を変え品を変えた近隣諸国の買出し出国防止策が効を奏し?、来星客数が前年を割れば、そこには当然熾烈なパイの喰い合いが演じられ、その結果、バーゲン合戦と相成る訳であります。

ところで、この地に30年も50年も営々と店格を維持してきた老舗が、強大な商業資本をバックに、某国から大規模出店を果した新参者に、浮気な消費者をさらわれそうになったら、何んに対抗するでしょう。自助努力に限界を感じたら、お上に助けを求めたくもなります。でも、この政府は、いかなる業種の外資をも一定の規準で受入れている以上、

小売店の進出だけを拒む訳には参りません。となると世論に訴えることになります。そうくると、日本のマスコミの活躍する場面登場です。……日系百貨店の相次ぐ進出は、現地同業者から反撥を招き、反日感情の再燃が危惧され……の記事になりそうです。

が、小売店は同業者のためのものではなく、いつもサイレント・マジョリティにされている消費者のためのものです。消費者は、決して無口ではありませんが、この種の報道では、取材対象者にならないのが残念です。

競合激化は、同業者、即ち、私にとっては歓迎されざることですが、消費者にとっては大変好ましいことです。

この国で「あのサービス、どうにかないの」の声がなくなり、品種も値段も香港に遜色のない買物天国のイメージを定着させるためにはこれからも続くであろう競争の激化や一過的なオーバーストアが、むしろ、苦いながらも妙薬なのかも知れません。

以上、お屠蘇がちょっと過ぎて、筆が滑りました。今年も引続きご愛顧を賜わりますようお願い上げます。

新年随想

理事

シンガポール・タイム

取締役 / G.M 小林 紀夫

小生のスケジュール表から昨年一年間の、訪問客を拾ってみた。従前面識のなかった人だけでも約120組あった。各組の人数は、1人から多くは50人もの団体もあるので、延べ人数ではどの位になるのか推測すらできない。

当社の労働日数が267日であり、このうち約60日間を海外出張で費した小生は、約200日間に120組の人に会っていることになる。商社や銀行とちがい、当社は販売部門をもたない製造業であるので、この数字は決して少いものではないと思う。日本勤務の時にも相当数の訪問客を受けているが、これ程の数ではなかったと記憶している。これもシンガポールという特殊な場所柄によるものかと思う。

その都度、名刺の交換をする訳であるが、今では、失礼ながら名前と顔が一致しない人もいるし、また全く記憶に残っていない人もいる。あ

るいは相手の方も同じかも知れない。

面と向って話をしているときには、それぞれが親愛の情をこめて話をしている筈なのに「時間」とともに、話の内容は勿論、相手の顔さえ忘れてしまうのであるから、小生の脳味噌も相当に老化がすすんでいるに違いない。

昨年、当社の会長が来星され、夕食を共にしたときに、この名刺のことが話題になった。会長もやはり多くの人に会うが記憶に残らない人がいて、ある日相手から、声をかけられて途惑うことがしばしばあると嘆いておられた。会長がお会いになる人数規模が小生より多いのか、或るいは小生同様に老化によるものか確かではないが同じ悩みはあるものだった。

いずれにしても脳味噌のリフレッシュをするために、できるだけ多くの本を読み、屋外スポーツを楽しむ実り多い一年でありたいと願うのは小生一人だけではないと思う。皆さんいかがですか。

新年雑感

理事

住友銀行

支店長 赤松 孝彦

当地の新年は日本人会の賀詞交歓会で始まる。

大使の米ソ軍事関係及びドル高の解説を十三名の職場の内地派遣職員と共に興味深く拝聴した。実は大晦日を全員がNHK短波放送で紅白歌合戦での都はるみの絶唱と除夜の鐘を聴きながら年越そばをすすり、新年は難しい年だから全員一丸となってスタートを切ろうと誓い合ったのである。

物事は考えようである。発展を続けた後には停滞がくる。問題はこれをどうやって早く乗越えるかである。これからの一年間これ迄以上に汗と泥にまみれるものの、これは並の幸せをつかむ為ではなく一段と次元の高い繁栄を求めて躍進を続ける為なのだと言ひ皆に熱っぽく語り共鳴を得た。

上司は勿論、お客様にもはっきり物の言える人間になれと昨年一年間行内で言い続けてきた。お蔭でお客様とけんかをする奴まで出てくる始末

で、たくましい人間集団に私自身もまれる今日この頃である。はっきり物を言う為には自信を持つことが必要であり、この自信はたゆまず訓練を積み重ね精進することによって生まれる。

元旦の午後は昨年同様ブキットコースで初打ちに及んだが九番、十八番の池越ショットも余り苦にならなかった。麻雀も昨春は強豪に囲まれ恐怖感めいたものを覚えたものだったが、はたして新年はと自問すると同時に、昨年はどちらも少しやり過ぎたかなとちょっぴり反省する次第である。

元旦の夜は久振りに親子揃ってお正月料理にありついた。酒の肴に出されたなまこの柔らかさに驚いた。「茶ぶりなまこ」と言うのだそうで、ここでまた日本料理の智慧の結晶に感心させられ、調理人の説明に聞き入った次第である。



新年を迎えて

理事

東京海上火災保険シンガポール(株)

取締役/総支配人 望月 冲

会員の皆様、明けましておめでとうございます。さて、この間当地で初めての正月を迎えたと思っていましたら、また新年、月日の経つのは本当に早いものです。ことに、一年中変化のないシンガポールでは尚更のことと思います。ところでこちらに来る前は、シンガポールは一年中が夏である、とか、3シーズンである(HOT-HOTTER-HOTTEST)とか聞いて参りましたが、じっくり観察してみると、この中でも微妙な自然の変化がある様です。洋上はるか入道雲の湧き立つ暑い日、一天にわかにかき雲り激しい雷雨の日、カラッと晴れて空気の澄んだ、日本でいえば秋晴れ、ないしは五月晴れの日(こういう天気はほんの数える程でしょうか)、雨のしとしとと降る、日本の入梅の頃の天気、どんよりと曇った日は肌寒く、まるで雪の降る前のように、穏やかな天気の日海は波がゆらゆらと、うららかな春先の

ようですし、また、フラットの上から、大粒の雨をみると、まるでボタン雪がひらひらと落ちてゆく様を思い出させます。木々の緑も、枯葉が落ち、その上から新芽が出て、自然の息吹を感じさせます。

さて、今年の景気はどうなるでしょうか。当地損害保険業界も先進国型になりつつあり、難しい時代に直前しておりますが、皆様のご支援を得て当地企業の一員として地道にやっていきたいと思っています。私事で恐縮ですが、昨一年はゴルフも程々にやり、H'CPも年初の24から19になりましたが、これも束の間新年は又々21でスタートとなりました。腕の上らないゴルフにも気分一新取組み、また、以前日本で習った北京語、韓国語のほか、今年は新たにマレー語にも挑戦してみたいと思っています。それでは会員の皆様“SELAMAT HARI RAYA”ますますのご発展をお祈り申し上げます。

新年所感

理事

横河電機シンガポール(株)

社長 渡辺 昭雄

明けましておめでとうございます。
皆様よい新年をお迎えのことと存じます。

当地に来まして二度目のお正月を迎え、こちらの気候・風土・風習に慣れたように感じています。しかし季節感がないために、齢のせいもあって、几帳面に日記でもつけていないと、過去の出来事がいつあったのか思いだせないようになり、果して当地でいつまでもつか、ちょっと心配になってきました。

84年は、電子・電機関係を中心とした製造業はおおむね好調で、NWC 勧告についても一昨年ほど論議されなかったように思います。

当社にとっても昨年は当り年でした。当日本商工会議所、日本在外企業協会、日本経営協会共催の労使関

係セミナーの第1回日本視察団に当社から1名参加させていただくことができました。

11月に開催された International Exposition of QC Circles には、親会社からもベストサークルが参加してくれましたし、当社に対し思いがけなくも、Outstanding QCC Company, Outstanding および Meritorious QC Circle, Outstanding および Meritorious QC Circle Facilitators の5つの賞が与えられました。

生産性向上運動月間の開幕式において、リー首相が述べておられましたが、当社でも生産性向上運動のための準備を整えたところであり、さらに身についたものとなり、力を充分に発揮するには、あと相当長い年月が必要だと思われます。

今年の方の経済予測は、減速傾向のようで再び手綱を引き締めて行きたいと思っています。

1985年の新年随想

監事

シンガポール・ノムラ・マーチャント
・バンキング

社長 沼野 健司

皆様、明けましておめでとうございます。
います。

私は、昨年四月、前任地香港よりシンガポールに参りましたので、当地での正月は今年が初めてです。しかし、単身赴任という事もあり、私は正月を日本で過しました。家族との団らん、旧い友人達との再会も大きな楽しみではありますが、それと同時に、一年の区切りは、やはり日本独特の年末年始の雰囲気の中でつきたいと考えたからであります。香港時代を含めて5回目の正月帰国を経験した訳ですが“日本で正月を過したい”という気持は年々歳々強烈になって参りました。日本人の私にとって、正月という言葉、響きは知らず知らずのうちに、精神的よりどころというか、むしろ、宗教になっている事を今更ながら発見した次第です。この事は、すなわち、中国人にとってのチャイニーズ・ニューイヤ

ー、マレー人のハリラヤ、インド人のディーパヴァリ等を深く理解することの必要性、重要性を示唆します。シンガポールという多民族と異文化の地で、外来者である我々が、シンガポーリアンの協力を得つつ経営の実をあげるには、彼等にとっての、“正月”つまり、宗教や文化を理解することが、何にも増して重要でありましょう。そういう意味でも、従来は、すべて日本的尺度、発想で事に処して参りましたが、今年は“郷に従う”ことを謙虚に学ぼうと思っております。昨年は、一年目ということもあり、忙がしきにかまけて、そのあたりの勉強はさぼっておりました。今年のシンガポール休日は、半日はゴルフ、あと半日は、その休日の謂れ因縁でも紐解いてみようと思っております。最後になりましたが、シンガポール日本商工会議所、及び会員企業の益々の御発展、駐在員の皆様とその御家族の御健康と御多幸をお祈り申し上げます。本年もどうぞよろしく。

1985年の新年を迎えて

ジェトロ シンガポール・ジャパン
・トレード・センター

所長 井手 俊弘

皆様、明けましておめでとうございます。早いもので、当地に参りまして二度目の新年を迎えることになりました。旧年中は公私共に皆様にご大変お世話になることが多く、この欄を借り皆様にあつくお礼申し上げます。

私共シンガポール・ジェトロと致しましては、昨年4月より新たにシンガポールの輸出振興への協力、投資促進、中小企業の技術移転への協力などを内容とする新しい事業を始めており、とくに当国 TDB, STG MA の企画した東京におけるシンガポール・ガーメント・ショウ開催に関しては、関係の皆様にご協力をお願いしており、関係者一同たいへん感謝しております。今後ともご協力を賜りますようお願い申し上げます。

私共としては、ジェトロ全体として、ジェトロと改称した方がよいと云われる程、対日輸入促進に力を入

れておりますが、当地においては、これと併行して日本の中小企業製品の紹介のための各種展示会への参加、開催を行っており、昨年は5つの展示会への参加、開催を行っております。又ハイ・テク、省エネ、コンピューター、金型など各種のセミナーを開催し、シンガポールの商業に技術上の協力を行っております。

すでに皆様ご存知のように、私共の事業所の中に機械技術産業用電子（コンピューター）、船用機械、建設、貿易情報（神奈川県）の各部を設け、各関係の皆様へのサービスを行っておりますので、ご利用願います。

プライベートのゴルフの方では、この一年間ほとんど進歩がなく、皆様にご迷惑をおかけしていますが、余り迷惑がらず時々はお仲間に参加させて下さるようお願いいたします。

では、今年もよろしくお願い致します。

わからぬということ

顧問

ペトロケミカル・コーポレーション
・オブ・シンガポール

社長 堀 英太郎

イギリスには「わたしは二たす二は四だと思いますが、あなたはいかがですか」というジョークがあるという。自分では当たり前だと思うことが、他の人にとっては或いは当たり前ではないのではないかという見方、つまり個々のちがいをまず前提において自らを位置づけ、人と人との関係を考えて行こうという発想である。

同質的とも考えられる同国人の人間関係でも、このようにちがいが認識されるとするならば、異った人種であり歴史的にも文化的にも異った背景をもつ外国人とでは、その考え方のちがいはもっと大きいにちがいない。差が大きければそのちがいの認識は容易ではないかといわれるかもしれないが、それは物理的な面であって、人間心理にかかわることとなると、そう一義的には行かない。深層心理学と称する研究を以てしても仲々、人間心理の究明はむずかし

いようである。

「外国ってわからない。ほんとうにわかっているのは、わからないということだけかもしれない。中途半端に知っていると、それにとらわれてとんでもない結論を出してしまいかねない、どんなに永く、その国にいても自分にはよくわからないと思っている人の方が結局は過たない」とは人の心理も含めて外国についての作家の沢木 耕太郎氏の言である。生兵法は大怪我のもと、半可通は心すべきことにこそというか、仲々に言い得て妙である。

ともあれ、わからぬということに心して他の意見、考え方をよく聞きわかったふりをしたり、わかったと思いつつをつつしむことである。これはひつこみ思案、消極的ということでなく、常に自らを省みつつ、ものごとを考え、人と対話をして行こうということである。又、これは謙虚さとか、相手の立場に立って考えとかいうことにも通ずるのであり、極めてプリミティブなことではあるが、相手を理解する第一歩ともなることである。

小生、この国に来てから二年有半、三度目の正月である。この国の人に

とってみれば、いわばかけ出し的存在である。

会社の方もスタートして約一年弱、日・シ合弁事業の中における人間関係など、これから取り組んで行くべきデリケートな問題が多くある。

本質的にはわからぬことだらけである。それだけに本年は、わからぬということについて、あらためて虚心に考えなおして行きたいと思っている。

心 と 心

顧問

カワイ・シンガポール

代表取締役 安川 一夫

数年前、福田首相はアセアン諸国歴訪の折、国と国との繋がりは人びとの「心と心」とであると説いた。

これは私たちを魅了するに十分な美しい言葉であり、これはたちまち「流行語」となって私たちの日常の口にのぼるようになった。

たしかに、この異国の地で心と心に通えば、いまわしいトラブルも起らず、万事意の如く進むのである。私たちはこの言葉に励まされて、人それぞれに実行にとりかかった。しか人びとは壁に突当り、失望し、腹

を立てた。「親切にしてやったのに裏切りやがった」と、しかし、よく考えてみよう。

「シンガポール人は無責任だ」と云う人がいれば、それは早トチリである。「責任」という言葉に対する考え方が両者は完全に異なるからである。シンガポール人の責任とは、与えられた任務の範囲内で誠実に実行することであり、それが責任の限界であるが、日本人にとっては定時までには仕上らなければ夜を徹してもやり遂げることである。だがシンガポール人はこれを日本人の力（りき）みであり計画のまずさであると云う。

外国人と真の友好と理解の実をあげることは容易ではない。異国の世界はわれわれにはわかりにくく、常に壁と距りを感じる。招れると本当に十年の知友の温かさを覚え、心の友のえられた喜びを感じる。しかしそれは飽迄も表向きの姿に過ぎず、本当に受入れてもらえるには長い時間と地味な研究と努力が必要であろう。

心と心のふれ合いは決して不可能事ではあるまい。相手の習慣と生活感情を理解する努力がふれ合いへの一步一步の前進につながるに違いないだろう。私はそれを願って新しい年もこの歩みを怠りなく続けてゆきたい。

シンガポールの石油産業

出光インターナショナル・アジア

中澤 啓介

石油の取引に於いて、よく「PLATT'S MEANプラス10¢」と云った値決めが成されております。PLATT'S とは、ワールドワイドな石油業界紙であり、石油製品については、世界の六地区を選んで毎日その値動きを発表しております。

この六地区とは、ARA (AMSTERDAM・ROTTERDAM・ANTWERP)、MED (地中海)、NEW YORK、HOUSTON、そして、このSINGAPOREが含まれているのです。これら六地区を世界地図に置いて頂けば、シンガポールの石油産業は、アジア地域及び環太平洋の国々に於いて大きな役割を果たしている事が御想像頂けるかと思えます。

では、この小さな国の大きな産業について、以下簡単に御紹介してみたいと思います。

1. シンガポールに於ける石油産業

(1) 輸出入実績 No.1 の石油

1983年のシンガポール貿易統計(以下STS)によりますと、輸出入に占めると石油の割合は、金額にして表Iの通りになっています。

表I 輸出入に於ける石油の割合

単位：百万S\$

	合計金額	石油金額	石油の割合
輸 入	59,504	18,612	31%
輸 出	46,155	12,970	28%

(注) STS には、インドネシアに対する輸出入は含まれていない。

勿論、シンガポールでは、原油は産出されておられません。輸出、輸入共に No. 1 の実績を示している事から分るように、この国の石油産業は、原油を輸入し、精製して石油製品を製造し、それを輸出するフローによって成り立っているのです。

更に、国内に於ける石油製品の需要も、自由貿易国らしくその大半がボンド品となっております。1983 年の全体のバランスは、表 II の通りになるかと推定されます。

表 II 石油の需給バランス

	内 訳	数 量	割 合	
製品輸入	8 割が重油	185 MBD	20%	
原油精製	全製品	750 MBD	80%	
(合 計)		(935 MBD)	(100%)	
国内需要	船舶用重油	110 MBD	12%	(58%)
	ジェット燃料	20 MBD	2%	(11%)
	P U B 需要	35 MBD	4%	(18%)
	島内需要	25 MBD	2%	(13%)
	(小 計)	(190 MBD)	(20%)	(100%)
輸 出	全石油製品	745 MBD	80%	

(注) ① S T S 等を基に、対インドネシアをも含めて推定。

② 数量単位 of MBD は、千 バレル / 日、1 バレルは 159 ㍓

(2) シンガポールの精製能力

シンガポールには、5 つの製油所があり、合計の精製能力は表 III の通り 1,088MBD にもなっております。

表Ⅲ 精製装置能力

単位：MBD

	常圧蒸留 装置	減圧蒸留 装置	改質装置	ハイドロ クラッカー	サーマル クラッカー	ヴィス ブレーカー
Shell	460	50	20	20	60	
ESSO	231	53	10			
Mobil	200	50	14			50
SRC	170	38	12	19		29
BP	27					
	1,088	211	58	39	60	79

(注) ①SRC : Singapore Refining Company は SPC (40%)、Caltex (30%)、BP (30%)、のジョイントリファイナリー。SPC は、シンガポール資本の石油会社。

②常圧蒸留装置：原油を最初に処理する装置であり、通常この装置の規模を持って製油所の大きさを計る。

この石油精製能力は、アセアン 6 ケ国の合計能力の 4 割強も占めております。又、日本のそれ（1984 年 3 月）と比較した場合、1/5 に相当するものであり、この小さな国にしていかに大きな装置能力を持っているがお分かりになると思います。

(3) 製油所の特徴

これらの製油所のうち、Shell、ESSO、SRC は、本島から離れた島々に立地しており、日本などと比べる特徴のひとつに挙げられると思います。

装置について見てみますと、二次装置（常圧蒸留装置以外を云う）が多い事も特徴であると云えます。勿論、東南アジアに於いて、これだけの二次装置を備えた製油所は他になく、特に、Shell のハイドロクラッカーなどは、日本にもあまりない最新鋭の装置であります。資本集約のこの装置産業に於いて、更に高付加価値化を目指しているのです。

(4) Shell にリードされた歴史

シンガポールの石油産業の始まりは、1891 年に Shell が BUKOM 島に油槽所を建設して、シンガポール及びマレーシアにランプ用灯油の供給を開

始した事によります。

以後、1961年に同じShellが30MBDの最初の製油所を完成させ、SRCが1980年に100MBDの製油所増設を行なって、今日の規模に致っております。

二次装置の付設については、1983年に、Shellがハイドロクラッカーを完成させ、1986年にはSRCもハイドロクラッカーを増設する予定を持っています。高付加価値化を志向した意欲的な設備投資が展開されております。

2 アジアに於けるシンガポール石油産業

(1) 近隣諸国の需給調整役

Shellが油槽所を作ってから今日に至るまで、シンガポールの石油産業は、輸出をその目的としている事は前述の通りです。

しかし、その営業形態は徐々に変わってきています。当初は、メジャーが近隣諸国に対して、独自の販売網にて供給の任を果しておりました。ところが、現在では、東南アジアの総ての国々が国营石油会社を持ち、製油所を持つようになっております。

石油製品は、原油を精製して作り出される事は云うまでもない事です。ところが、面倒な事に、灯油と軽油が欲しい場合にでも、原油の種類によって多少の違いこそありますが、ナフサや重油までが製造されてしまうのです。

概して、東南アジアの国々は、自国の石油需要に対し、余剰石油製品が発生しないベースでの製油所を持っている様です。よって、足りない石油製品は輸入に頼る事になり、余ってしまった場合は、誰かに引き取ってもらっている訳です。

シンガポールは、こう云った国々の需給アンバランス(概して不足)を埋め合わせる調整の役割も担っているのです。

(2) 原油精製の請負い

アジアの産油国である、インドネシア、マレーシア、中国などは、自国

の原油をシンガポールに持ち込んで、精製の委託を行なっております。

1985年の年初に於いて、その数量は、一部、中東の産油国が行なうものも含めて、300 MBD に達すると見られており、シンガポールリファイナーにとっては、大切なビジネスとなっております。

産油国がここで委託精製する理由については、夫々の国の事情によって異なる訳ですが、次のように理解してよいかと思えます。

①形を変えた原油販売：原油のままでは売りにくい、製品にしてしまえば、夫々の製品毎に買い手を見つけ易い。

②自国の製油所の代り：自国に製油所建設計画を持っているが、今現在は、総ての連産石油製品を吸収するだけの工業が育っていない。又、資金的にも余裕がない。よって時期が来るまで、余分な石油製品の処分もし易いシンガポールを利用する。

時には産油国だけでなく、トレーダーによる、利潤追求を目的とした委託精製も行なわれております。これは、予想される先の製品のマーケットと原油価格とを睨み合わせ、リファイナーに精製手数料を払ってでも利益が見込まれる時に行なわれております。1984年には、安いイラン原油、中国原油などが、トレーダーによって委託精製されました。原油の購入価格は確定していても、製品の販売価格は先にならないと分らない訳ですから、非常に大きな賭になる訳です。1回の委託精製で、US数十万ドルの損得が生じる事も珍しくありません。

勿論、リファイナー自身も同様のマインドを持って動いております。その時々マーケットを見て、原油の種類を選択したり、処理量を調整したりしているのです。

(3)各国の石油テンダーとの係わり

アジアの国々が、自国内に需給のアンバランスを抱えている事は、既に触れた通りです。そして、この調整は、大半の国がテンダーによって処理しており、年間を通じて、大小200件を超えていると見られます。テンダーの形態としては、単純な石油製品の購入（販売）以外に、石油製品どうし、若しくは石油製品と原油の交換などがあり、それらは都度で決められ

たり、年間で契約されたりしております。

シンガポールのトレーダーを始め、リファイナーは、当然これらのテンダーに応札しており、落札された製品のかかなりの量が、シンガポールから輸出されております。大きなテンダーが重なった時などは、製品のマーケットに大変な影響を及ぼす訳で、シンガポールの石油関係者は、常にこのテンダーの行方を追っている次第です。

(4) 始まったばかりのストレージ産業

最近になって、VAN OMMEREN , PAK TANK と云ったヨーロッパ系の石油のストレージ会社が、シンガポールへの進出を決めております。VAN OMMEREN は、既に480千KLの石油タンクを建設して営業を開始しており、PAK TANKは、用他の確保まで終わっております。計画では、夫々最終的に1,000千KLのタンクを持つことになっております。

昨年の11月の話ですが、あるトレーダーが、中東よりJet燃料をVAN OMMEREN に持ち込みました。一部はシンガポールで販売したのですが、残りの大半はインドに向けて再輸出を致しました。

今後はこう云った中東の石油製品を絡んでのストレージタンクの利用が、予想されるようになっております。

(5) シンガポールの石油会社

シンガポールには、原油・石油製品の売買を行なっている会社が、50社程あると思われ、次の様にタイプ分けしてみると把握し易いかと思います。

①リファイナー：当地に製油所を持つ、Shell , ESSO , Mobil , BP , Caltex , SRC の6社。

②トレーダー：ヨーロッパ、アメリカ、中国系が30社近くある。
本国では、リファイナーである会社も多い。

③日本商社：総合商社は、その殆どが担当セクションを持ち、別会社に行っているところもある。9社。

④日本石油会社：出光、共石、昭石、大協、太陽、日石、富士石、丸善の8社が事務所を置いている。

(6) 1983 年の輸出実績

1983 年の STS を基に、製品の油種別実績を、主な輸出先が分るようにまとめてみました。

表 IV 石油製品の主な輸出先

単位：千 t 百万 S\$

	ガソリン	ナ フ サ	ジェット燃料
日本向数量	0	2,516	523
その他向数量	マレーシア 674	韓国 238	ホンコン 337
	ホンコン 156	ホンコン 161	フィリピン 176
	オーストラリア 127	ニュージーランド 126	ニュージーランド 131
	他 499	他 281	他 483
輸出数量合計	1,456	3,322	1,650
輸出金額合計	1,032	1,993	1,105

	灯 油	軽 油	重 油
日本向数量	0	64	1,444
その他向数量	イラン 536	マレーシア 1,382	ホンコン 2,223
	ホンコン 233	タイ 780	マレーシア 1,560
	マレーシア 151	ホンコン 522	フィリピン 810
	他 506	他 2,332	他 3,037
輸出数量合計	1,427	5,080	9,074
輸出金額合計	2,750	3,023	3,714

	潤滑油
日本向数量	5
その他向数量	マレーシア 111
	アメリカ 100
	タイ 91
	他 183
輸出数量合計	490
輸出金額合計	571

3. シンガポール石油産業と日本

(1) お互いに高い比重を占める輸出入先

表 IV で分るように、ナフサ、ジェット燃料、そして重油は、かなりの量が日本に向けて輸出されております。1983 年の対日輸出実績は次の通りです。

ナフサ：76% ジェット燃料：32% 重油：16%

一方、日本の輸入サイドから見ても、これら 3 石油製品の対シンガポール依存率は高く、1983 年で、大方次のような割合であったと思われます。

ナフサ：1/4 ジェット：1/3 重油：1/7

(1983 年の日本の油種別輸入合計数量と STR 数量とから計算)

石油に関して日本は、消費地精製主義と云う立場を採っております。これは、経済性、安定性の面から、国内での原油処理を極大化し、輸出はボンド需要に留めると云ったものです。その結果、不足の生じた石油製品は輸入することとなり、上記の通り、シンガポールにも大きく依存することとなっているのです。

(2) 日系石油会社の活動

このような背景を理由に、日本の商社及び幾つか石油会社が、このシンガポールに事務所を構えているのです。従って、ここでの仕事は、製品の買付と日本への輸出が中心となっておりますが、近隣のマレーシア、インドネシア原油の扱いも見逃せない仕事となっているようです。

ところが、商社の中には、対日向けよりも、シンガポールをベースとした三国間貿易の方が、より大きな比重を占めているところも見受けられるようになっております。

又、日系石油会社では、中東・東南アジア原油を含めてのファイナンスイング、更に、近隣諸国に於ける石油開発等のプロジェクトを抱えているところもあるようです。

先に、シンガポールの国内需要について、6 割近くが船舶用重油である事を御紹介しました。ここに寄港する日本船はかなりな数に達すると思われる、供給される重油は、その殆んどが商社、日系石油会社を通して販売され

ている様です。又、重油に留まらず、日系石油会社の中には、自社ブランドの船舶用潤滑油を販売しているところもあります。

4. 今後のシンガポール石油産業

(1) 二つの大きな問題

現在、シンガポールの石油産業は、大きな問題に直面していると云えると思います。

第一の問題は、隣国であるインドネシアの委託精製の減少です。インドネシアは、自国内に併わせて 400 MBD の製油所を建設し、今迄シンガポールに委託していた原油精製を、自国内で行なう方針を打ち出しました。過去のピーク時には、200 MBD 以上の委託精製を行なっていましたので、これが無くなる事は、シンガポールの製油所稼働率に非常に大きな影響を与えます。

これらインドネシアの製油所は、1984 年の初めに次々と完成しました。しかし、本格的な稼働を行なうには、まだ時間が掛かると見られており、一時中断した委託精製も復活しているのが現状です。

次の問題は、中東の産油国が、原油だけでなく石油製品をも輸出した事です。サウジアラビアなどは、1984 年から 1985 年にかけて、合計 820 MBD の輸出用製油所を完成させる計画を持っております。既に、一部の完成した製油所からの出荷が開始されており、これらが総て完成したら、中東にもうひとつのシンガポールが出現する事になる訳です。

当地の石油産業は、国内に於いての委託精製量の減少、シンガポール以西の市場に於いては、コンペティターの出現と云う 2 つの問題に直面し出しているのです。

(2) シンガポールの対応

幸な事に、アジアの国々は、その殆んどが発展途上国であり、各国の石油需要の伸びが見込まれております。この事は、長期的に見て大きな希望となっておりますが、残念乍ら、今現在の問題解決にはなり得ないのです。シンガポールリファイナーの対応としては、次のような事柄が見受けられ

ます。

まず、従来の原油委託精製の減少に歯止めを掛けるべく、精製料の値下げや、YIELD（製造される夫々の製品割合）の改善等を行なっております。

更に、原油精製の新たな委託者の開拓にも力を入れております。1984年に、中国による初めての委託精製（20 MBD）を獲得したのがこの現われであり、1985年の同数量は100 MBD前後に増量される運びとなっております。

又、製造される製品のスペックの改善も行なっております。新しい市場開拓を目指したものであり、時に、日本等のような、寒冷地を持ち、規格の厳しい国に対しても輸出できるように対応しだしているのです。

季節要因等もあり、一概には云えないでしょうが、日本向けの比重は年々高まっており、主要3品目の推移は表Vの通りです。

表V 日本向う製品の推移

単位：千t

	ナ フ サ		ジェット燃料		重 油	
	対日数量	対日割合	対日数量	対日割合	対日数量	対日割合
1982年	2,699	78%	605	40%	1,915	20%
1983年	2,516	76%	523	32%	1,444	16%
1984年 1～6月	1,453	78%	652	53%	1,014	23%

(注)①1984年のSTSはまだ発表されていないので、1984年1～6月の半年間のSTSを採用。

②残念ながら、日本の輸入に於けるのシンガポールの割合については資料が揃いませんでした。

1984年は、まだ年間のSTSが発表されていないので、対前年比較は仮のものです。しかし、半年間に於けるジェット燃料、重油の数量を見ると、日本向けの著しい伸びが伺えます。

(3)今後の見通し

シンガポール以東は ともかく、以西については、中東の輸出製油所とコンピートしつつあると述べました。しかし、インドのマドラス辺りを分

岐点にして、ここ以東の地域については、フレートコストの点でシンガポールに有利になっているようです。この地域の国々の受入タンクやバースが小さい為で、一回の受入ロットは、30千MTに満たないところが殆んどなのです。

中東から25千MTを直送するのではなく、250千MTの原油を一旦シンガポールに持ち込んでしまい、ここで製品に変えてから配送するのです。その時々船のマーケットにもよるのですがトータルフレートに於いて、この方が安く仕上がっているのが現状です。

もうひとつの安心材料としては、中東の輸出製油所の中に、メジャーも資本投下しているものが幾つかある事が挙げられます。当地のリファイナーも同じメジャーである訳ですから、当然、夫々の製油所間での協調が予想されて然るべきでしょう。

これからのシンガポール石油産業は、期待されるアジア諸国の需要が実現するまで、如何に切り抜けるかに掛っている事は既に述べた通りです。

私見ですが、この間に於けるシンガポール石油産業の将来は、ひとつには、日本の消費地精製主義の維持如何、そして、世界的製造・販売網を持つメジャーズの、シンガポール基地の位置付け如何、これらに負うところが大きいような気が致します。

シンガポールの広告事情

(株)博報堂シンガポール

渡辺 知見

数年前、某得意先に初めてご挨拶に伺った時のことでしたが、“いやあ、④さんがシンガポールにオフィスがあるとは知りませんでしたなあ。日本では色々お世話になっております。”云々。そして暫らくしてから

“ところで自宅には何台位印刷機があるですか？”と聞かれ、私は思わず閉口してしまったことがあります。しかしながらこれも当然とっていいかも知れません。業種が違えば各々どんなことが実際に業務とされているのか解らないものです。当然上記の質問の答えは“ノー”であり、私共は印刷機を所有してはおりません。印刷はもち屋である印刷会社をお願いしている訳です。

さて広告と言えば一般の消費者の方々にお馴染み深いテレビから流れるコマーシャル、ラジオコマーシャル、新聞広告、雑誌広告等であると思われます。これらの宣伝は私共のお得意先から依頼され、お得意先の商品等を消費者の方々に訴求するために創りあげた作品（メッセージ）であるわけではあります。

日本では情報過多気味であり、情報の中に消費者の方々がうずもれてしまっている傾向があるように思われますが、広告会社といえども単にその商品や会社の宣伝をするということだけでなく、いかに正しく、皆さまのお役に立つ情報を提供するかが私共の願いであるわけではあります。すこし私共の宣伝になってしまいましたが、ここでシンガポールの広告事情なるものに触れてみたいと思います。

シンガポールは皆さまご存知のようにその国土は日本の淡路島程度であり、全人口は約250万人の都市国家です。ですから市場（マーケット）サイズはおのずから限られている訳です。広告のメッセージを流す手段として、私共は媒体（メディア）と呼んでおりますが、テレビ、ラジオ、新聞、雑誌、看板、シネマ、バスパネル及びP. O. P (Point of Purchase

消費者の方々がお店に行った時目に入るサイン類、ポスター、チラシ、ステッカー、モビール等）があります。これ等の媒体の中でもマス媒体と呼ばれるものは新聞、テレビ、ラジオ、雑誌の4つになりますが、なんといっても昨今で主流になる媒体としては新聞とテレビが考えられます。全シンガポール広告費約350億円（1984年度）位に占める媒体別シェアを見ますと

新聞	57%
テレビ	24%
雑誌	13%
ラジオ	2%
シネマ	1%

となります。

新聞はおおまかに言いますとストレートタイムズ（英字紙）と聯合早報（華字紙）で占められており、全部では9紙のデイリー紙があります。とりわけストレートタイムズの読者数は73万人位おりますのでその影響力は大きいと言えましょう。ストレートタイムズと聯合早報の読者数を併わせるとシンガポール全体の新聞読者数（15才以上）の約70%を占めかつ、両紙の読者の重複は比較的小さいとされています。新聞とテレビ媒体の広告効果はどちらが大きいのかということは各々の媒体特性が異なりますので一概に比較することは出来ませんが、新聞はメッセージ伝達の時間的制約がないことから、商品の説明、確認が出来、商品の特性等を訴求するのに効果があると思われます。ですからスーパーや百貨店業界のように一度に沢山の商品を広告するのには適当な媒体と言えます。ちなみにストレートタイムズの場合は成人男女の中で10人の内4名が平均45分間かけて読んでいるというデータがあります。

とくに、シンガポールの新聞紙面でユニークなものを挙げると、故人の写真が黒枠で掲載されていることと、行方不明のペット等の写真を掲載していることにお気づきだと思います。また最近では石油会社のキャンペーンで現金マッチゲームというのが行なわれた際、例えば「自分は\$25,000の左側半券をもっているから右側半券をもっている人は連絡乞う。」とい

う広告もありました。次に Visual (視覚) と Audio (聴覚) を持ち合わせたテレビが挙げられ、シンガポールでのカバー率は90%以上あり、総世帯数約55万の内カラーテレビ86%、白黒テレビ22%の普及率です。ただ日本の状況と異りますのはテレビ局は一局しかなく(但しマレーシア放送RTMが受信可能)チャンネルは5、8、12チャンネルの三つだけであり、番組は日曜日を除いては午後からしか放映していない状況にあります。SBC (Singapore Broadcasting Corporation) は政府のコントロール下にあります但し日本のNHKと違い、コマーシャル放映を行っております。前述のようにSBC局には三つのチャンネルしかないので、シンガポール特有である多民族国家のため、政策上英語、華語、タミール語並びにマレー語にて番組が編成されております。皆さまお気づきのことと思いますが、ニュースも時間帯を分けチャンネル5は英語とマレー、チャンネル8は華語とタミール語で流されています。チャンネル5は主に英語での番組を流しておりますので、プライムタイム(視聴者数が一番多いタイムゾーン)にはアメリカのTV映画が放映され、かたやチャンネル8は華語ドラマが放映されております。ここで面白いことには人気番組トップ10の中には英語の番組はひとつも顔を出さず、華語番組で占められているということです。華語番組は政策上マンダリン語で流されているわけですが、英語の教育を受けた視聴者の中になんかなりマンダリンを理解出来る層がいると思われることです。ある華語番組では全人口250万人のうち70~80万人の視聴者数がいるということですから非常に驚きです。(但しシンガポールの視聴者数のデータは15才以上の成人男女でありますから対象は約180万人となる)

ここでテレビ広告(コマーシャル)の方に話を向けたいと思います。広告会社ではテレビ媒体を使用してある商品のコマーシャルを流すわけですがテレビコマーシャルといっても秒数の長さによって料金も違ってくるし、時間帯によっても異なるのです。例えばある商品の広告展開を考えますと、まず商品分析から始まり、他社競合商品の情報、市場サイズ、シェア、ターゲットピープル等の分析、その商品のマーケティング目標に沿った戦略

立案から始まり、予算、媒体ミックスプラン（どのような媒体を組み合わせることにより、より大きな効果を求める）、そして広告宣伝内容の組み立てから表現というステップになる訳です。そこでテレビCMに割りふられた予算をいかに効率的に使うために番組の選定、秒数の検討、決定となります。ですから一外にCM秒数が長ければ良いというものではありません。消費者の方々にはTVCMというと番組の途中で用を足しにいく時間だという概念も過去にはありましたが、昨今では番組本体よりユニークで面白いCMもあることと思います。但しそれ等のCMは単に直感的なイメージで即座に創られるのではなく、作業としては前述のようなステップを踏んでいるのです。シンガポールで流されているCMの表現は英語・華語によってなされているのですからコピー（広告文案）がすぐれているかどうかは中々解りにくいことと思います。専門家である私共日本人にとってみると英語・華語のキャッチフレーズ、コピーを完璧に理解するのは難しいものです。逆にシンガポリアンの方々が日本に何10年生活していたからといって日本語のコピーを理解するのは至難のことといえます。ですからここではコピーについては深く触れませんがVisual（表現）の中でシンガポールにはこんな規制があるという点についてお話しします。お気づきと思いますが、女性の裸体が出てくるCMはあるにはありますがその露出度となると日本のようにはまいりません。また長髪の男性モデルが出てくるCMもありません。これは外国人男性が空港のイミグレーションで入国拒否を受けるのと同じです。水をむやみに撒くシーンもいけません。節水キャンペーンに反するからです。タバコのCMは全面禁止です。言葉の表現では正しい英語・華語等を使用せねばならないので新語、造語を使って流行させることは出来ない状況であり、SBC局にも言葉をチェックするセンサー部門（検閲審査会）があるほどです。TVCMでは秒数の長さにより商品名の露出回数の規制があります。

例えば	7秒スライド	音声なし
	15秒スライド	6回
	10秒フィルム	4回

20秒フィルム	6回
30秒フィルム	9回
60秒フィルム	18回

というようなものです。これ等の規定回数を越えた素材が持ち込まれた場合プラスαの料金が請求されます。

テレビ広告費の総広告費に対するシェアは前述しましたように24%ですが、これは80年度と84年度を比較しますと落ち込んでいます。今後は生CMとか午前中のワイドショー等の編成で新しい試みがなされることが今後のテレビ広告費のシェア拡大に結びつくのではないのでしょうか？

その他の媒体で特にシンガポールとしての特長あるものとしてはRediffusionという有線放送（ラジオ）があり、現在約10万世帯が受信しています。この媒体の特性としては主な聴取者は中国人の主婦であり世帯所得は\$750～\$1,500位の中層・下層レベルと言えます。政府がスピークマンダリンキャンペーンを行う以前は中国語の方言で放送されており、SBC局ラジオに較べて優位性を持っておりましたが、現在では世代の交替、キャンペーンの効果等からマンダリンを解する人達が多くなり以前程の大きなポイントとはなっていないようです。しかしながらラジオと違い朝から晩までスイッチを入れっぱなしにしているため聴取者は仕事をしながらでも自然に耳に入ってくるという利点があります。また有線放送は他の電波媒体と比較しますと、聴取者数は少いのですが1人当りに到達するコストは非常に安いと言えます。

シネマは、成人男女の5人に1人は毎週みに行くほどですから、世界の国々と比べてもシンガポール人は最も映画好きな国民と言えましょう。総映画館数は68館ですが、やはり時代の波とともに閉館する映画館も最近ではでてきております。おそらくテレビとVTRの普及からくるものと考えられます。

ちなみにVTRの普及率は成人男女の47%を占めてきております。

さて、各々の媒体全てに関して列記しますととても長くなり書ききれないと思いますので最後に、シンガポールの主な業種別広告費シェアを以

って留めさせていただきます。

デパート・スーパー	S\$ 11.3 m
ホテル・レストラン	S\$ 10.7 m
銀行・金融	S\$ 8.2 m
航空会社・旅行業	S\$ 7.4 m
車	S\$ 6.5 m
時計	S\$ 6.3 m
媒体社	S\$ 5.2 m
衣類	S\$ 5.1 m
家具	S\$ 5.1 m
不動産	S\$ 5.1 m

(資料 : AdNews)

シンガポールの総広告費は '83 年度と比べると減っている状況にあります。今後はマス媒体を中心とした広告活動から地域を重点とした消費者と密着したコミュニケーション活動に目が向けられるかも知れません。

会員紹介

- HONDA MOTOR CO LTD

Singapore Regional Office

(本田技研工業 (株) シンガポール事務所)

所在地 : 75 Bukit Timah Road #06-01, Boon Siew Building, Singapore 0922

電話番号 : 3381955

設立 : 1984 年 6 月 (登記)、1984 年 10 月 (操業)

形態 : 駐在事務所

代表 : 堀 盟 (所長代理)

Mr. M Hori (Acting General Manager)

従業員 : 9 名、日本からの派遣社員 6 名

事業内容 : ASEAN 各国の 2 W 車情報収集

(会社の特色)

世界的視野に立ち、顧客の要請に応じて、性能の優れた廉価な製品を生産する為に情報 (ASEAN 諸国) を提供する。

- NOMURA RESEARCH INSTITUTE

((株) 野村総合研究所)

所在地 : 6 Battery Road #39-02, The Chartered Bank Building, Singapore 0104

電話番号 : 2258441

設立 : 1984 年 1 月 (登記)、1984 年 7 月 (操業)

形態 : 駐在事務所

代表 : 手柴 正気 (主席駐在員)

Mr. S Teshiba (Manager & Researcher)

従業員 : 3 名、日本からの派遣社員 1 名

事業内容 : シンガポール、マレーシア、インドネシアに関する情報の収集、及びそれらの分析。

(会社の特色)

日本有数のシンクタンクに相応しい質の高い調査・研究を行うことで顧客の信頼を得る。

理事会の動き

第185回 1985年1月11日(火) 午後12時30分

議 事 :

1. 前回議事録承認

異議なく承認された。

2. 審議事項

(1) 本所事務局員への賞与支給について

赤松総務担当理事より本所事務局員4人に対し例年通りの支給月数にて12月20日に賞与を支給したいとの提案があり、審議の結果、異議なく承認された。

(2) 本所ローカル・スタッフの永年勤続表彰について

赤松総務担当理事より「本所創立15周年を記念して本所事務局員に特別賞与支給との考えもあったが、むしろ永年勤続表彰が望ましいとの結論に達した」との運営担当理事会の審議経過が報告された。

これを受けて、事務局より永年勤続表彰について以下の提案があった。

Mr	K.L.Koh	勤続15年	表彰金額	S\$250
Mrs	P.C.Lee	勤続10年	表彰金額	S\$200
Mr	M.Y.Wong	勤続10年	表彰金額	S\$200

審議の結果、異議なく承認された。

(3) 本所女子職員の出産休暇および出産祝金について

Mrs P.C.Lee の出産にともない1984年12月1日から1985年1月31日まで出産休暇を与えるとともに、出産祝金S\$100を支給したい旨事務局より提案し、異議なく承認された。ただし出産祝金については制度化しないで、今後ケース・バイ・ケースで処理

することになった。

(4) 本所創立15周年御祝金の使途について

日本在外企業協会永田敬生会長並びに日立造船永田敬生代表取締役から頂だいた合計20万円をオート・スライド・プロジェクターの購入に充てたいとの事務局の提案は異議なく承認された。

(5) 1984年労使関係セミナー収支決算(案)について

11月19日開催の標記セミナーに関して当地で発生した費用について収支決算書を取りまとめ、事務局より以下の通り報告した。

支出 S\$18980.05 と参加費収入 S\$7840 の差額 S\$11140.05 のうちセミナー招待者・講師昼食費、会場費、録音諸費、テキスト印刷費、講師宿泊費の計 S\$6240.90 を日本在外企業協会負担分とし、残り S\$4899.15 を本所負担とする。

以上について諮ったところ異議なく承認された。

(6) 本所創立15周年記念行事決算(案)について

事務局より標記記念行事実施費用は当初予算 S\$20,000 に対して S\$16,207.60 におさまった旨報告し、了承された。

(7) 在星関係機関との懇親ゴルフ大会開催について

在星の主要関係機関との相互交流の促進を図るため標記ゴルフ大会を開催してはどうかとの提案は異議なく承認された。

案内先にはシンガポール商工会議所連合会、中華総商会、国際商業会議所、製造業者協会、マレー、インディアン会議所、アメリカ・ビジネス・カウンシル、プリティッシュ・ビジネス・アソシエーション、ジャーマン・ビジネス・グループ、シンガポール・アイランド・カントリー・クラブのほかアセアン諸国の会議所があればそこも加えることとし、各機関から2名ずつ招くこととなった。

この他詳細については、田本企画担当理事に検討いただくことになった。

(8) 再留学援助制度派遣候補者の推薦依来について

JUGASに対し第2回目の再留学援助制度派遣候補者の推薦を依頼

することが了承され、事務局より依頼状を出すこととなった。また、JUGASとの交流を促進するため留学生関係促進担当理事においてJUGASメンバーとの懇談会等を中心とした年間プログラムを作成することとなった。

- (9) Community Chest の Corporate Gifts Committee への本所代表者派遣要請について

標記要請については本所の基本方針通り断わることにし、事務局より断り状を出すこととなった。

- (10) SICC Special Corporate Member 募集について

標記の件に関しては関心のある日系企業もあると思われるが、詳しい情報がわからず検討のしようがないケースがあるようである。そこでSICCに対し日系企業へのPRを積極的に実施してはどうかとのサジェスションをすることとなった。

3. 報告事項

- (1) 労使関係セミナー並びに本所創立15周年記念行事開催報告について

水戸会頭より関係者各位のご協力により標記事業を大変盛大に挙行することができた旨の報告があった。

- (2) 部会・委員会等開催報告について

1 部会

11月16日（金） 第三工業部会

30日（金） 第一工業部会

2 委員会

11月22日（木） 経営研究委員会

28日（水） 第5回 JCCI-NPB PERMANENT DIALOGUE
COMMITTEE

28日（水） 広報委員会

12月 4日（火） 運営担当理事会

7日（金） 広報委員会

3 懇談会等

- 11月19日（月） 1984年労使関係セミナー
20日（火） 本所創立15周年記念行事
12月7日（金） 四国経済連合会・生産性本部主催アセアン産業経済視察団との夕食懇談会

4 入・退会

事務局より下記の入・退会を報告し、審議の結果、次の通り決定した。

(1) 入 会

YOSHIDA SEIKI CO LTD ----- “ C ”

(2) 退 会

DOCE PRIVATE LIMITED

5 会計報告

吉永財務委員より1984年11月分の会計報告があり、異議なく承認された。

以 上

12—1月の主な経済記事

12月18日 。修正金融会社法が去る11月12日に成立したのに伴い、金融管理局(MAS)はこのほど全国34の金融会社に対し同修正法に関するガイドラインを示すとともに、同修正法で定められた単一企業グループに対する30%融資限度を超えている既往融資(outstanding loans)のリストを12月末までに提出するよう指示した。

同修正法では、中でも、従来金融会社自己資本の60%まで認められていた単一借り手グループに対する信用供与限度が30%までに引き下げられ、金融会社は2年内にこの規定を満たすよう求められている。このため、同一の金融会社から多額の融資を受けている企業は融資源の多様化を迫られることになり、その過程で資金繰りに苦勞する企業も出るのではないかと懸念されている。

19日 。シンガポール大学教授の調査によると、当地で働く日本人マネジャーは概してシンガポール人マネジャーが自分たちよりレベルが劣ると考えているが、欧米人マネジャーはそうは考えていない。

日本人マネジャーはまた、シンガポール人の個人主義的・競争的アプローチがコミュニケーションを困難にしており、シンガポール人の一般的労働レベルは時に日本人のそれより低いと考えている。

これに対し欧米人マネジャー、特に米国人は、シンガポール人マネジャーが自分たちと同様に優秀で、時には米国人マネジャーよりすぐれていると考えている。

シンガポール国立大学人材管理学科の Joseph Putti

教授は当地で働く外人マネジャーの意識調査を行ない、日本人と欧米人のシンガポール人マネジャーに対する評価にこのような違いがあることを明らかにした。

同教授はまた、海外の経営管理手法のシンガポールへの導入とその問題について外人マネジャーにたずねたところ、米国人マネジャーは本国の経営管理手法の移転に楽観的だったが、日本人はそれほどポジティブな見解をもっていないことがわかった。同教授はこの点について、これはたぶんシンガポール人マネジャーに西洋の影響度が高いためであろうと指摘し、次のように述べている。

「日本人重役は重要な文化的違いがあるため本国の経営手法をシンガポールへ持ち込むことはむずかしいと信じている。労働者が労働に対して現実的・非情緒的アプローチを取る場合には、日本式アプローチは完全に失敗するようだ。日本式のグループ・オリエンテーションはシンガポール人マネジャーの競争的・個人主義的アプローチには合わないように見える。」

同教授はシンガポール人は自主的思考、競争、専門化、インフォーマルな雰囲気でのスピーディな意思決定を好むが、こうした姿勢は企業が従業員の間に企業忠誠心を育てようとする場合には問題を生じると指摘している。

しかし同教授の調査によると、次の3点については日本人マネジャーと欧米人マネジャーの意見が一致していた：

- シンガポール人労働者の間に欠怠勤と労働回転率が高いこと。
- シンガポールの経済開発へのアプローチは適切であること。
- シンガポールの労使関係は良好であること。

同教授はこうした調査結果をもとに、海外からの経営手法の導入には十分な予備策が必要であり、文化と物の考え方が異なるので海外の手法をそのまま取り入れてうまくいくケースは限られていると結論している。

12月27日。サンフランシスコのBank of Americaが発表した1985年世界経済予測によると、アジア全体の国内総生産(GDP)成長率は今年の5.7%から来年は5%に減速する見通しだが、世界全体の来年のGDP成長率見通し3.2%に比べると非常に高く、アジアは引き続き世界で最も高い経済成長を維持する見通しだ。

中でも日本は、来年の経済成長率見通し4%で、アジアの経済成長の機関車的役割を強めていくと同行は見ている。

また、アジア全体のインフレ率は今年の4.6%から来年は4.9%にやや上昇すると予測されている。

以下はアジアの主要国についてのBOAの経済予測。成長率は実質。

中国：今年の経済成長率7.5%に対し来年は7%に減速、インフレ率は3%から5%に上昇する。

香港：経済成長率は今年の8%に対し来年は7%に減速、インフレ率も今年の9%から来年は7%に低下。

シンガポール：経済成長率は今年の8.5%に対し来年は7.5%の見通し。来年のインフレ率は3.5%。

韓国：経済成長率は今年の8.5%から7%に低下、インフレ率は4%から7%に上昇。

フィリピン：経済成長率は今年のマイナス6%から来年はマイナス1.5%に、インフレ率も今年の50%から来年は30%に改善する。

インド：経済成長率は今年の5.3%から来年は5.4%

に、インフレ率は9.5%から10%に上昇する見通し。

B O A は台湾、香港、シンガポールの3国をアジアの経済的に“飢えた小龍”、中国を“巨龍”と称している。マレーシア、インドネシア、タイ等についての予測は不詳。

- 1月7日
- 。昨年7月に成立した修正雇用法と雇用（女性労働者）規則が1月7日（月）から施行される。これらの改正法は12時間労働制や女性労働者の夜間就業を認めるなど労働力展開の柔軟性を雇用主に与えている。

労働省は過去5カ月間に雇用主や労働組合から寄せられた問い合わせをもとに、これら各修正規則についての英文ガイドラインを各約1500部ずつ発行、無料で配布している。

- 。不動産購入者の利益を保護すると共に不動産開発コストを軽減する不動産関係の3つの修正法が4日発効した。

国家開発省が4日発表した公報によると、これら修正法は、“住宅開発商条令”、“商業不動産販売条令”、“住宅開発商（統制および免許）法”の3つ。

この修正により、不動産物件の保守保証期間がこれまでの半年から1年に延長され、補修用準備金が不動産価格の5%から8%に引き上げられた。

修正規則はまた、開発商に対し販売契約上に仮入居許可および所有権移転の期日を明記することを義務づけているほか、不動産購入者が仮入居許可取得後に支払う一部代金の額を住宅不動産の場合これまでの10%から30%に、商業不動産の場合これまでの10%から25%に引き上げている。

- 1月10日
- 。シンガポール全国雇用主連盟（SNEF）の“1984年管理職給与調査報告書”によると、シンガポールにおける

企業管理職の月収は概ね 5000～1 万 4000 ドル（S ドル、以下同じ）の間にあるようだ。

同調査は 1984 年 7～9 月の間に全国 239 社の 51 種類の管理職位につく 2086 人の管理職を対象にアンケート用紙の送付方式により実施され、各職位別の基本給と各種手当の額をレポートしている。

各種職位の中で最も高い報酬を得ているのは企業グループの最高経営責任者（CEO）でその基本給は平均 9000 ドル、これに各種手当を加えた月収は 1 万 4000 ドル前後である。しかし各業種の格差も大きく、飲料・タバコ関連業種の某 CEO の月収が 9277 ドル（基本給 5500 ドル）であるのに対し、非製造業の他の 3 人のグループ CEO の平均月収は 1 万 8972 ドル（基本給 1 万 4000 ドル）である。

個別企業（非グループ）の CEO の平均基本給は 6100 ドル、諸手当を含めた平均月収は 9055 ドルである。衣料履物製造企業の CEO は各業種の中で最も低い報酬を得ており、その額は 3500 ドル（基本給 3000 ドル）だった。

一般に米国系企業の CEO は欧州、日本、地元企業のそれに比べ高い報酬を得ている。しかし調査対象はすべて地元職員で、外人職員は含まれていない。米系企業はその地元管理職に基本月給（CPF を含む）として平均 3189.5 ドルを支給しているのに対し、地元シンガポール企業は 2702 ドル、他のアジア系企業（日本、シンガポールを除く）は 2575 ドル、欧州企業は 2382 ドル、そして日系企業は最も低い平均 2200 ドルを支給しているにすぎない。

社用車、住宅、娯楽手当、クラブ会員権、ボーナスな

どの特別給付を含めた総額では、他のアジア系企業が平均月額3692ドルを支給して米系企業に次いで第2位、シンガポール企業は3098.5ドルで第3位となっている。

専門職の中で最も高級を得ているのはチーフエンジニアで、彼らの半数は月収5000ドル以上、また学卒エンジニアの月収は2300～2800ドル、それ以外の専門資格所持エンジニアのそれは1845～2466ドルである。

会計士の月収も比較的高く、財務経理は2506ドル、主任会計士となると4893ドルの報酬を得ている。

コンピューター・データ処理、プログラマー、アナリスト等の給与は2000ドル～3000ドル強だった。

ちなみに同調査の対象企業には製造業および非製造業の電気・電子工業、金属・機械工業、化学工業、専門サービス業、卸・小売業、運輸業、銀行・金融業等が含まれている。製造業の管理職の平均基本月給は2835ドル、非製造業のそれは2815ドルだが、諸手当を含めた総月収はそれぞれ3829ドル、3202ドルと差が開いている。

What our executives earn		
Position	Median base salary \$/month	Median gross salary \$/month
Chief executive — group	9,000	14,055
Chief executive — non-group	6,100	9,055
Branch manager	2,338	3,129
Corporate planning manager	5,577	7,449
Personnel manager — group	6,221	6,550
Personnel manager — non-group	3,530	4,139
Personnel officer/executive	1,650	1,883
Marketing manager — group	5,100	6,420
Marketing manager — non-group	4,120	5,591
Financial controller/manager	4,925	5,827
Company secretary	3,110	3,601
Public relations manager	3,524	3,620
Source: SNEF salary survey 1984.		

廣 報 欄

- ** NEW MEMBERSHIP (8TH JANUARY 1985)
- * HYDRO—PNEUMATIC TECHNICAL CENTRE
Mr. S. Sato (General Manager)
Blk 12
Lorong Bakar Batu #01-09
Kolam Ayer Industrial Park
Singapore 1334
Tel: 7433850/1
Tlx: RS 55276 HPTC
Fax: 7437951
- ** CHANGE OF NAME OF REPRESENTATIVE
- * MHI SOUTH EAST ASIA PTE LTD
From Mr. S. Tazawa to Mr. A. Ogawa
- * DAI NIPPON PRINTING CO LTD
From Mr. T. Torii to Mr. M. Tetsumura
- * RINKAI CONSTRUCTION CO LTD
From Mr. M. Kakiuchi to Mr. T. Kawai
- * TAKACHIHO SINGAPORE (PTE) LTD
From Mr. M. Ichishima to Mr. H. Iba
- * CANON SINGAPORE PTE LTD
From Mr. H. Saito to Mr. K. Oyachi
- * JAFCO INTERNATIONAL (ASIA) LTD
From Mr. T. Ogawa to Mr. S. Kashino
- ** CHANGE OF ADDRESS & TELEPHONE
- * RINKAI CONSTRUCTION CO LTD
Tunas Crescent
Tunas Avenue
20 Junction
Singapore 2263
Tel: 4633776, 8613918
Tlx: RK SPORE 24194

資料案内

国内一般

シンガポール共和国概要 (1981年)	S\$ 10
シンガポール共和国移住法	S\$ 15
民事法	S\$ 5
刑法 (暫定規定法)	S\$ 10
公益事業法	S\$ 10
JAPANESE AFFILIATED FIRMS IN SINGAPORE	(非会員) ... S\$ 30
	(会 員) ... S\$ 15

投資関係

資金援助制度の手引き	S\$ 8
法律 15号 (経済拡大奨励法改正法) 1979年	S\$ 5

租税・税制

法律第2号共和国所得税法改正 (1973年)	S\$ 5
法律第13号 " (1977年)	S\$ 5
法律第17号 " (1980年)	S\$ 5
法律第20号共和国所得税 (改正) 令	S\$ 5
シンガポールとの租税 (所得) 条約	S\$ 5
法律 (改正) 時報第21号 (経済拡大奨励法及び所得税法改正法)	S\$ 5
シンガポールの租税	S\$ 15

会社法

法律第1号 (共和国会社法改正) 1970年	S\$ 5
法律第4号 (共和国会社法改正) 1974年	S\$ 5
法律第19号 1980年中央厚生年金法告示 (付表の入替)	S\$ 5
法律16号 (会社の買収及び合併に関する)	S\$ 5
シンガポール共和国会社法 (会 員)	S\$ 60
シンガポール共和国会社法 (非会員)	S\$ 70

為替管理・関税

関税法（1979年関税令）	S \$ 15
法律第6号（為替管理法改正）1976年	S \$ 5
法律第9号（共和国関税法改正）1976年	S \$ 5
金融業者法	S \$ 10
財務諸表公開原則	S \$ 15

業種別規則

法律第18号工場法改正法（1973年）	S \$ 5
大気汚染防止法（1971年）	S \$ 10
建築物規制法（1973年法律第59号）	S \$ 5

特許・商標・その他

シンガポール共和国特許（実施権）法	S \$ 5
シンガポール共和国商標法	S \$ 10
価格規則法	S \$ 5
1975年水質汚染規制及排水法	S \$ 10
1971年海洋汚染防止法	S \$ 5

労働関係

労働組合法（1977年）	S \$ 10
法律第3号（共和国労働雇用法改正）1970年	S \$ 5
法律（改正）時報（第25号）	S \$ 5
法律（改正）時報（第26号）	S \$ 5
法律（改正）時報第22号（雇用法並びに労働者補償法）	S \$ 5
法律（改正）時報第23号（中央厚生年金法改正法）	S \$ 5
労働雇用法（1976年幼少年雇用規則）	S \$ 5
法律（改正）時報第24号（中央厚生年金改正法）	S \$ 5
法律（改正）時報第27号（中央厚生年金法を改正する法律）	S \$ 5

商工会議所出版物

業種別会員名簿（1984/85年）	S \$ 15
（会員）	S \$ 15
（非会員）	S \$ 30
月報（各月号）	S \$ 8
国際比較統計要覧	S \$ 5
最近の労働条件及び福利厚生の実態調査報告書	S \$ 10
（会員）	S \$ 10
（非会員）	S \$ 30
タイ国投資環境視察団報告書	S \$ 5
（会員）	S \$ 5
（非会員）	S \$ 10

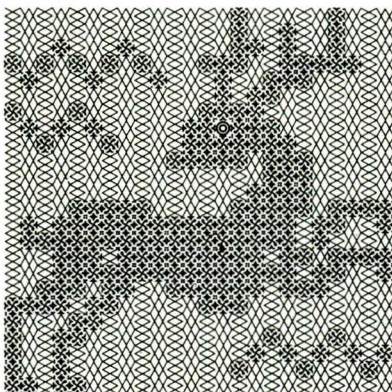
編集後記

「月報」読者の皆様、新年おめでとうございます。シンガポールでの新年といっても、あまり実感が湧きませんが、職場やご家庭のカレンダーが新しくなり、清々しい気持ちで1985年をスタートした事と思います。

シンガポール日本商工会議所「月報」も恒例の表紙替えに伴ない、今年も皆様に一層有意義で楽しんで頂けるものにしようと、編集委員一同思いを新たにしています。どうぞよろしくご支援の程、お願い致します。

さて、今年度1月号は例年通り、理事・監事・オブザーバーの各位に「新年随想」をご寄稿頂きました。また、出光インターナショナル・アジアの中沢氏には「シンガポールの石油産業」を、博報堂の渡辺氏には「シンガポールの広告事情」をご多忙の折それぞれで執筆頂きました。

今月号は、岡山（三菱倉庫）、東屋敷（松下電器）が担当させて頂きました。



MONTHLY REVIEW

STRICTLY MEMBERS ONLY



M. C. (P) No. 11 / 4 / 84

PRINTED BY
GREEN MOUNT PUBLICATION & PRINTING CO.
155 Kallang Way # 02-11/12
Singapore 1334. Tel: 2923831

JAPANESE CHAMBER OF COMMERCE & INDUSTRY SINGAPORE

C. P. F. BUILDING , 79 ROBINSON ROAD , # 24 - 04 (24th Storey) SINGAPORE 0106